

学校点描

職員室では、試合結果の報告が入る度に、政子さんがメッセージ入りの結果報告を描いてくれました。

《M中学校》

NO. 5 H27. 7. 3

担当：教頭

小中高ボランティアが昨日、暑い中行われました。

同じ近所に住む小学生と中学生が地域のために一緒に活動するものです。最上町の児童生徒ならではの、活動です。ボランティア自体は、ゴミ拾いが主ですので、そんなに変わったことではありません。ただ、その日に向けて、中学生自身が卒業した小学校に戻って説明をしに行ったり、数少なくなった小学生の面倒をみながら本番の活動を行う。そんなところに意味を見出すわけです。

大人も子どもも「みんながやってるから、仕方なくやってるんだ」と思っていたとしたら、それはこの活動の意味がなくなります。“みんな”という枠をいかに壊して、自分の地域はどうか、この活動で何を育てるのかと思えることが大切です。そんな中、どの地区でも、地域の先輩である区長さんが一緒に児童生徒の後ろをついてくれて見守ってくれました。そんな区長さんの後ろ姿を、子どもたちがどう見ているのか。

言葉だけの『地域とつながる』では、何を企画しても、多忙感と疲労感しか残しません。

“みんな”に埋没する時代

Q「21世紀の日本から無くなるのは何だと思いますか？」

A「亭主関白」（第1位） 「正月料理」（第2位） 「近所づきあい」（第3位）

今から20年前に、12000人を対象としたアンケート調査です。共稼ぎが普通になり、「正月料理」はスーパーで手に入れる。いずれも20年前の予想通りにことは進んでいるわけです。では、「近所づきあい」はどうか。もう、平成1桁代のときから、近所づきあいはなくなると予想する人が大勢いました。実際問題、「近所づきあい」は無くなったとは言えませんが、その形は確実に私たちが子どものころとは変化していますね。昔あった、ある程度、定型の家族の形がなくなり、その家その家で多種多様になっているからです。

先日、PTA 育成部が主催して地区懇談会が開催されました。地区によっては、出席率が低く、区長さんと保護者の参加数が変わらないという地区もありました。「今の生徒はこうだから、私たちの地区ではどうするか」の知恵を絞り合う会、それが地区懇談会の本来の意味なのでしょう。わが子が携帯電話を欲しが理由に「みんなも持っているから」と言うんだと語ってくれた保護者の方がいました。持つのが良いのか悪いのかは、様々な家庭の状況によって正解が違うのが現代です。「みんなでいきましょう」と、言えなくなったところが、新しい家族の形に対する難しさをはらんでいます。

小説が好きで、とくに重松 清（しげまつ きよし）さんの小説はよく読みます。一つをあげるとすると次のものを紹介しましょう。

重松さんが、「友だちとは何か」、というじつにシンプルな問いを投げかけたのがこの小説です。こういう人こそ友だちと呼べる、などと定義づけているわけではありません。作者が書くのはもっと根元的なことなんです。

中学生にも十分読めます。



さて、先日、その重松 清さんの講演会が、O 村の PTA 研修大会でありました。人気作家ということもあり、会場は多くの M 地区小中学校の PTA 関係者が集まりました。

重松さんは語ります。

『昔は、みんなが共通して持つ“当たり前”がありました。たとえば“標準世帯”という言葉、標準世帯という定義は、次のようなものです。①夫婦と未成年の子どもが2人いる4人家族②家計は、両親のうちどちらか一人が担っている（妻は専業主婦ということ）③学校に在学している子は必ず通年通っている（病気等で学校を長期欠席や停学・休学していないということ）④4人全員健康であること。さあ、このいずれも当てはまり、我が家は標準世帯だという家は手を挙げてください』重松さんの問いかけに、200人以上いる会場で手を挙げた人は、数名でした。

氏は続けます。『全国どこでも、この質問をすると、結果は同じなんです。昔と違って、標準という定義はなくなってしまったんです。私の子どもの頃は、人間の生き方についても、おおよそ正解がありました。こんな大学に入って、こんなところに就職して、こんな家族を持つこと、それが生き方としての正解。そう、当たり前の正解があったんです。その当たり前の正解の中に自分もいると、安心感が得られました。でも、その分、当たり前の枠に入っていない人に対して、とっても冷たい。時々、敵とみなすこともある。これじゃあ、今の世界でも近所でも誰もが平和になんて暮らしていけません。』さすが作家であって、お話はとても流暢で、汗いっぱいをかきながらも、氏の論をわかりやすく話され講演会が終了しました。

いずれにしろ、わたしたちは、正解のない問いの中で暮らしています。それが21世紀の生活です。“みんな”という言葉に埋もれていては、多くのものを失う時代です。

そんな中、正解のない問いの日常で、あの区長さん達の後ろ姿は、揺るがない何かがあることを教えてくれているように感じたのです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp